新学部長に聞く

福島（ふくしま）　利夫（としお）　経済学部長

暮らし全体を対象に おもしろく役立つ学問

今、経済学がおもしろい。そして、経済学が求められています。それは、日本も世界も大きく変わりつつあるからです。経済学を学ぶには、またとない好機となっています。

私自身も学生時代に、講義で「経済学を知らないで、人生を語ることも世界を語ることもできません」といわれたことが印象的でした。その意味は、経済が社会全体の仕組みの土台だということです。

経済学は、商品の生産・流通・売買・消費・廃棄といった、人々の日常の暮らしのあり方とそのための仕組み全体をその対象としています。

また、国際経済学科では、環境・民族・宗教などの問題群と、アジア・アフリカ・アメリカなど世界各地域の研究を設けています。

これらによって、「おもしろい」「わかる」「役に立つ」経済学を提供できることを願っています。

ここで、創立者の一人である田尻稲次郎の逸話を紹介します。田尻はしゃれ者でした。といっても、服装のことではありません。東京大学で財政学の講師をしていた時の話です。後藤新平が鉄道院総裁に就任すると、「鉄道がゴトゴトいわないかな。シンペイでシンペイでたまりませんな」といったそうです。このように、「タジリ稲次郎」は、実は「ダジャレ稲次郎」でもあったのです。これも経済学をおもしろく提供するための先人の一つの工夫でした。

略歴　京都大学大学院経済学研究科博士課程単位取得退学。博士（商学）。大阪経済法科大学教授を経て、1997年本学教授。専門は経済統計学。「数値をみるときは、そこで使われている用語の定義と調査方法について注意してほしい」と話す。大阪市出身。64歳。

金子　洋之　文学部長
宇都　榮子　人間科学部長

再任

任期満了に伴う経済学部長、経営学部長、文学部長、人間科学部長の改選が、各学部教授会で行われた。経済学部長に福島利夫教授、経営学部長に馬場杉夫教授が選出された。金子洋之文学部長、宇都榮子人間科学部長は再任された。任期はいずれも本年9月1日から2年間。新任の福島利夫経済学部長と馬場杉夫経営学部長に抱負を寄せていただいた。

馬場（ばば）　杉夫（すぎお）　経営学部長

社会で活躍するため 気づきと学びを促す

大学は冬の時代を迎えています。大学進学が将来へのパスポートであった時代は終わりを告げ、何が学べるかを意識した大学選びが進んでいます。

その反面、実際は中身で選ばれていないようにも感じます。経営学は高度職業訓練的色彩が強いため、高校までの科目に全く反映されていません。そのため、高校生が経営学を理解する機会が欠如してしまっています。

中身が問われているが故らい、というのが大きな悩みです。そのような中で若輩の私が学部長という大役を拝命し、身が引き締まる思いです。

私たちの学部では、卒業生がさまざまな領域で活躍できることを目指しています。そのために、問題の本質を理解し、解決策を練ると共に、実現に向けた努力を継続することが、気づきや学びを促します。

厳しい中にあって経営学部は、先達の功績により非常に良い仕組みを築いてきました。高校生に経営学をわかってもらうための公開講座（8面に関連記事）。時代に合った入試制度。他に類を見ない充実した情報や会計の基礎教育。最先端の専門知識を提供するテーマ制と問題解決力を養う演習科目の選択必修。卒業生との対話を取り入れた授業。常に先を行く自己点検……。

略歴　1995年慶應義塾大学大学院商学研究科博士課程単位取得退学。同年本学講師、97年助教授、03年教授。05年慶應義塾大学より博士（商学）を授与。専門は戦略経営論。日本学生自転車競技連盟理事。今年フルマラソンで初サブスリーを達成。横浜育ち。45歳。

高校生にとってわかりづらい、というのが大きな悩みです。そのような中で若輩の私が学部長という大役を拝命し、身が引き締まる思いです。

私たちの学部では、卒業生がさまざまな領域で活躍できることを目指しています。そのために、問題の本質を理解し、解決策を練ると共に、実現に向けた努力を継続することが、気づきや学びを促します。

厳しい中にあって経営学部は、先達の功績により非常に良い仕組みを築いてきました。高校生に経営学をわかってもらうための公開講座（8面に関連記事）。時代に合った入試制度。他に類を見ない充実した情報や会計の基礎教育。最先端の専門知識を提供するテーマ制と問題解決力を養う演習科目の選択必修。卒業生との対話を取り入れた授業。常に先を行く自己点検……。

略歴　京都大学大学院経済学研究科博士課程単位取得退学。博士（商学）。大阪経済法科大学教授を経て、1997年本学教授。専門は経済統計学。「数値をみるときは、そこで使われている用語の定義と調査方法について注意してほしい」と話す。大阪市出身。64歳。

▲「ハイチ革命はアメリカに何をもたらしたか」樋口映美教授

文学部・高校教員研修プログラム
2日間で延べ201人が受講

文学部の教員が高校教員を対象に講義を行う研修プログラムが7月30、31の両日、生田キャンパスで開催された。2日間で延べ201人が参加し、「倫理」「地理」「日本史・世界史」「国語」の4グループで展開された。

同プログラムは研究成果の社会還元と国公立・私立の中学・高校教員との連携を目的に2006年度から行われている。昨年は東日本大震災の影響で中止となり、2年ぶりの開催となった。

【倫理】テーマは「高校倫理と大学の哲学・倫理学との接続」。金子洋之学部長による「言語と哲学」など、哲学科の3教員が現在の倫理学の動向を踏まえて講義を行い、質疑に応じた。

【地理】「地理教育に役立つ最新情報―地理学の現場から―」と題し、「従来説が変わりつつある日本の山地地形学とは？」「地理に欠かせない地図と防災教育の行方は？」「長期在外研究を通じて見えてきたロンドンの都市問題とは？」の3点について、環境地理学科の3教員が講義した。

▲「芥川龍之介『舞踏会』について」小野隆教授

【日本史・世界史】「高校教育に役立つ世界史・日本史研究の最新情報」がテーマ。「日本史」は奈良時代までの宗教について矢野建一教授が、江戸時代の勤労について西坂靖教授が講義。「世界史」は高久健二教授が考古学的資料を基に朝鮮半島の楽浪郡について、樋口映美教授がハイチ革命について講義。また、歴史学科教員との懇談会、図書館見学も行われた。

▲「朝鮮・楽浪郡の実態を探る」高久健二教授

▶「説話から演劇へ、演劇から説話へ」石黒吉次郎教授

【国語】「進展する日本語研究、日本文学研究」がテーマ。古典語と現代語を比較しながら日本語の変容を解説した鈴木泰教授による「古典は日本語の源」など、日本語学科・日本文学文化学科の3教員が、語学と文学の両面から国語教育について講義した。

女性アスリートの入浴に関する研究
株式会社バスクリンと共同で

社会体育研究所（所長・佐藤雅幸経済学部教授）と㈱バスクリン（東京都港区）は「入浴による女子レスリング選手のコンディショニングに関する研究」で共同研究することが決まった。日本オリンピック委員会（JOC）公式入浴剤パートナーとしても活動している同社は、アスリートのコンディショニング法の一つとして入浴を有効活用するためにスポーツ活動支援を行っている。

社会体育研究所

女性アスリートにおいて、月経症状はトレーニングや心身のストレスで容易に崩れることが知られている。一般的に、入浴は女性の月経症状の緩和に効果的であると言われてきたが、日々激しいトレーニングを積んでいる女性アスリートを対象にした入浴効果に関する検討はほとんど行われていなかった。そこで、入浴効果に関するエビデンスを心理学的、生理学的な側面から明らかにすることを目的として、これまで多くのアスリートに対して科学サポート支援の実績がある社会体育研究所と連携し、共同研究を行う運びとなった。

社会体育研究所の佐藤所長は「スポーツ選手の入浴効果に関する報告は少なく、スポーツの実践と学術の統合拠点である研究所を通してアスリートのコンディショニング支援に貢献していきたい」と話した。研究期間は2012年4月から1年間で、研究成果は国内外の学会等で発表する予定。

『学校をつくろう』10月13日に上映会

創立130周年記念映画『学校をつくろう』の上映会が、10月13日(土)、川崎市多摩市民館大ホールで開催される。

同日開催される「多摩区・3大学連携協議会主催コンサート」（14～17時）終了後、17時30分開演（上映時間は1時間49分）。入場は無料。

「多摩区・3大学連携協議会主催コンサート」についての問い合わせは多摩区役所企画課☎044(935)3147へ。

『学校をつくろう』については専修大学総合企画広報室広報課☎03（3265）5819へ。

公開講座情報

大学院公開講座「東日本大震災から学ぶ災害・リスクの総合研究」

PART1「東日本大震災から学ぶもの―大震災の現在・過去・未来―」

▽日時＝10月5～26日、毎週金曜日（全4回）、18時30分～▽場所＝神田キャンパス731教室▽テーマ＝被災地の現状は／災害の記憶と伝承、ほか

※11月9日からはPART2「東日本大震災と政府・地方自治体の対応」（毎週金曜日・全4回、時間・場所は同じ）を開講。

申・問　大学院事務課☎03（3265）6568